

青葉通駅前エリアの取り組みについて



令和4年9月26日

仙台市

1. 青葉通駅前エリアの取り組みの目的

《取り組みの目的》

東北の玄関口である青葉通駅前エリアにおいて、官民が連携してこのエリアならではの賑わいや新たな魅力を生み出すことで、交流人口の拡大や経済活力の向上につなげていくことを目指す。

2. これまでの青葉通駅前エリアの取り組み開始の背景

- 平成30年に青葉通まちづくり協議会（H24設立）から広場化を含めた「**青葉通まちづくりビジョン**」の提言
- 青葉通駅前エリアにおける**開発機運の高まり**
- せんだい都心再構築プロジェクトや新総合計画などによる**新たなまちづくりの始動**



このエリアの公共空間のあり方を官民が連携して検討し、**エリアの将来ビジョン**を策定するため、令和3年6月に「**青葉通駅前エリアのあり方検討協議会**」を設立。

【協議会の主なメンバー】
商工関係者、沿道地権者、まちづくり協議会、学識経験者、
鉄道・バス・タクシー・トラックの各事業者、行政、警察

3. 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会の検討状況

エリアづくりの視点の検討

視点1 「仙台の顔としてのエリア」

- ・このエリアや仙台の個性・強みを生かしながら、様々な人がこのエリアに行きたくなり、訪れる人に**仙台の第一印象として好印象**を与える、**市民が誇れるエリア**とすること。
- ・エントランスの役割として、他のエリア（東北、仙台市内、都心各エリア）へ導くこと。

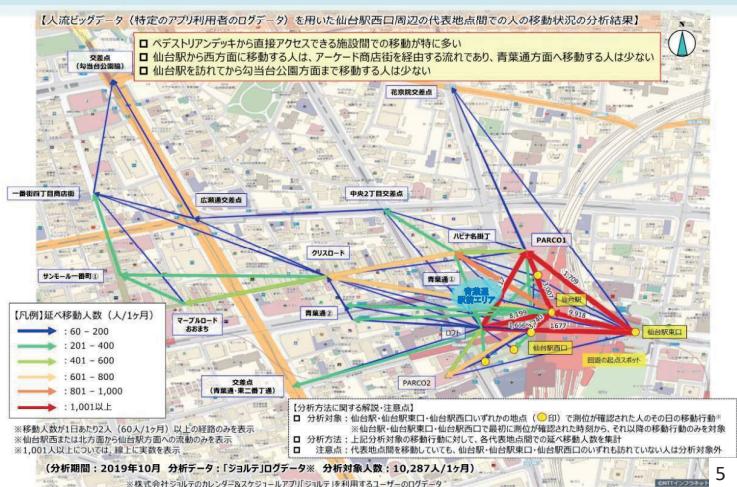
視点2 「多様な活動があふれる人を中心のエリア」

- ・楽しみ、ワクワク感、居心地の良さ、暖かみ、安心感、魅力的・刺激的な経験といった**訪れる人の感情や活動を生み出し、様々な人が惹きつけられる**エリアとすること。
- ・ひととの交流や出会いによって、イノベーションが生まれるエリアとすること。

視点3 「エリア価値向上のために挑戦するエリア」

- ・新たな魅力を生み出すことや、社会の変化に応じて変えていくことなど、このエリアにかかる**多様な主体がエリア価値向上のためにビジョンを共有し、挑戦すること**。
- ・（社会のニーズや変化に柔軟に対応できる空間、新しいテクノロジーの活用など）⁴

3. 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会の検討状況 エリアの課題抽出①：JR仙台駅周辺の人の流れ

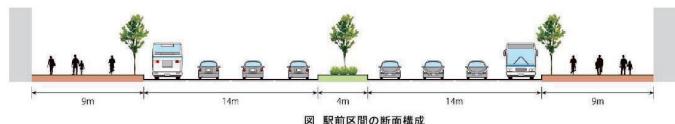


3. 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会の検討状況 エリアの課題抽出②：歩道の幅員

各種統計データ等

⑤歩道幅員が十分でない歩道空間

- 青葉通駅前エリアの歩道幅員は9m。しかし、バス待ち客が並ぶ場合、実際の歩道幅員は約2m程度
⇒歩道幅員は十分とは言えない。また、通過するだけであり、来街者に居心地よく歩きたいと感じてもらうことはできない



3. 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会の検討状況

エリアの課題抽出③：オープンスペース

【オープンスペースの不足】

- ・半径500m圏内に大規模な緑地・公園等のオープンスペースが不足
- ・青葉通近隣に地域避難場所が存在していない（最近傍は錦町公園）
- ・イベントは定禅寺通・勾当台エリアが中心



（出典：国土数値情報、仙台市都市計画情報
インターネット提供サービス）



仙台駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会資料より引用

表 仙台都心の大規模イベントの会場

イベント名	主な会場
仙台七夕まつり	勾当台公園、一番町、中央通り、仙台駅前等
仙台七夕花火祭	西公園
SENDAI光のページント	定禅寺通
ストリートジャズフェスティバル	定禅寺通
青葉まつり	一番町、東二番丁通、定禅寺通、青葉神社等
みちのくYOSAKOI祭り	勾当台公園、一番町、仙台駅前等

7

3. 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会の検討状況

エリアの課題抽出④：「賑わい」・「仙台の顔」とは

- 仙台駅周辺は、歩行者が多い。

しかし、人がたくさん歩くだけ（通過するだけ）で、「賑わいがある」と感じるでしょうか

- 人が集まり、滞在し、交流し、活気がある

と感じられることが「賑わい」ではないでしょうか

⇒実現すれば、来街者に青葉通駅前エリアは居心地がよく、

また来たいと思つてもらえるのではないかでしょうか

⇒現状はどのような状況でしょうか



平日13時頃の青葉通駅前エリア



平日19時頃の青葉通駅前エリア

8

3. 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会の検討状況

エリアの課題抽出④：「賑わい」・「仙台の顔」とは

- 「まち」にも表情があるのではないか



4. 関連イベントの開催

- ◆開催日：①令和4年3月27日（日）／②令和4年5月21日（土）
- ◆開催場所：①・②ともにCROSS B PLUS（大町1丁目1-30 新仙台ビルディング1F）
- ◆参加者数：①約50名／②約50名



◆趣旨：

- ・様々な方から「青葉通駅前エリアのあり方」についての意見を収集
- ・イベントで行われるワークショップを通じて、青葉通を知り、考えるきっかけをつくること
- ・今後の社会実験等に関わる人材の発掘
- ◆来場者：今回は主に「若者」を対象に実施し、来場者の半数以上が20歳～35歳

3. 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会の検討状況

このエリアが将来、仙台の顔として、多くの人を惹きつけ、他のエリアへと導く回遊の起点となるためには、**将来のビジョン検討**が必要。



ビジョンの検討には、**道路空間の利活用の効果、交通への影響、及び都心における回遊の状況等、その実現可能性について確認**が必要。



令和4年度に社会実験を実施

9

10

5. 青葉通駅前エリアにおける社会実験の概要

◆主催：仙台市

実施協力：青葉通まちづくり協議会

◆空間利活用の実施期間：

R4年9月23日（金）～10月10日（月）の18日間

※交通規制期間（工事含む）は、R4年9月19日～10月13日

◆実施内容：

空間利活用 車道を含む道路空間や沿道民地の利活用を実施し、来訪者の過ごし方、滞在時間、回遊状況、市民や利活用事業者の意向等を把握

交通処理 道路車線を規制した社会実験時の交通への影響及び解決すべき課題等を把握するため、渋滞の発生状況や歩行者・自転車交通量、人流ビッグデータ等の調査を実施し、道路空間再構成の可能性や新たな施設整備の必要性を検証

11

12

5. 青葉通駅前エリアにおける社会実験の概要

社会実験の体制

青葉通駅前エリアのあり方検討協議会

社会実験の実施に向けた、提案・意見等
将来ビジョン策定に向けて、
社会実験の検証結果・課題等をフィードバック

**社会実験 主催:仙台市
(協力:青葉通まちづくり協議会)**

利活用に関することは「**社会実験準備事務局**」を中心に検討

5. 青葉通駅前エリアにおける社会実験の概要

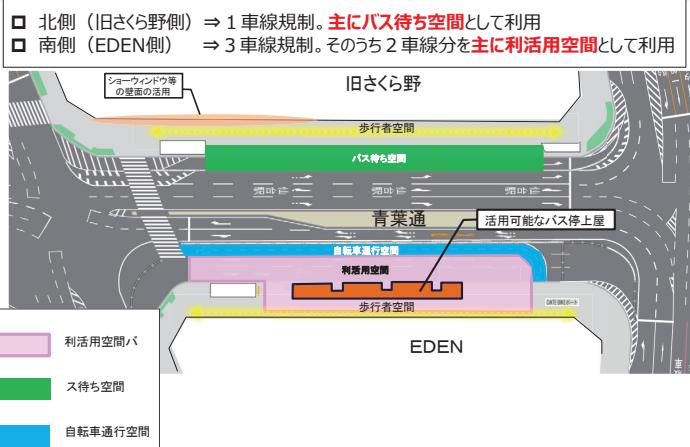
社会実験準備事務局：イベントに携わって頂いた方々を中心構成

役割	担当	
キュレーション (企画・構成・運営監督)	統括 あいだ研究所 代表 Studio Soda Sendai 宮城大学 助教	岩間 友希 昆野 沙耶 友渕 貴之
プランディング (全体コンセプト)	統括 FOLK GLOCALWORKS	奥口 文結
コンテンツ (プレイヤーの支援)	統括 エンスペース株	伊藤 小百合
空間デザイン	統括 KAI ARCHITECTS	貝沼 泉実
ビジュアルデザイン	統括 TORCH	小松 大知
プロモーション (ウェブ・SNS・広報戦略)	統括 (一社)ONE TOHOKU HUB	伊藤 愛発
実施協力	青葉通まちづくり協議会	
行政担当課	仙台市都心まちづくり課	
効果検証調査	株オリエンタルコンサルタンツ	14

13

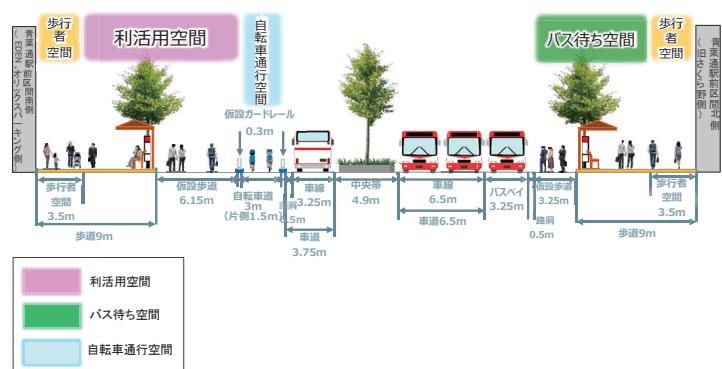
5. 青葉通駅前エリアにおける社会実験の概要

社会実験実施区域：平面図



5. 青葉通駅前エリアにおける社会実験の概要

社会実験実施区域：断面図



15

16

5. 青葉通駅前エリアにおける社会実験の概要

利活用コンセプト

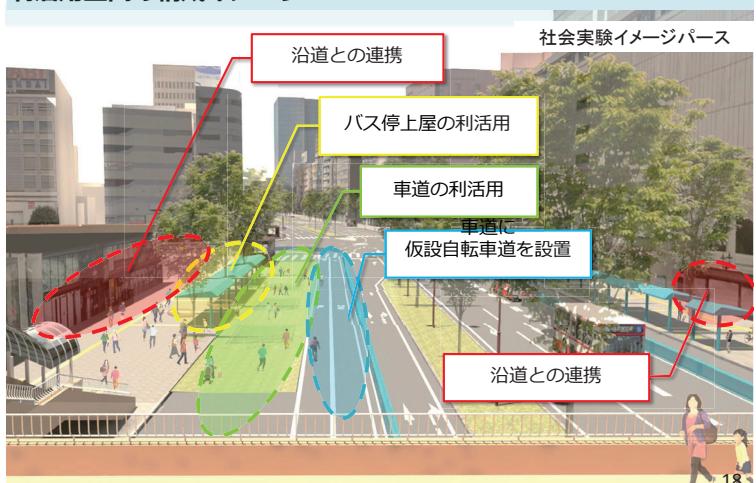
**青葉通駅前エリアのひととなり^(*)を見出し、
新しい流れを生む**

※人柄・人物・人格・器量・度量・器・品性など（「デジタル大辞泉」より）

様々な人が出会い、交流するきっかけをつくり、将来、
仙台の顔として他にはないエリアとなるための、新し
い流れを生み出す。

5. 青葉通駅前エリアにおける社会実験の概要

利活用空間の構成イメージ



17

18

6. 社会実験後の取り組み(予定)

《社会実験後の取り組み》

- ・実験における道路空間利活用の効果や交通への影響を検証する。
- ・実験の検証結果をふまえ、R5年度将来ビジョン策定を目指し、検討を進める。

7. 社会実験の情報

《専用ホームページ》

<https://machito-sendai.com/>



《SNS》

Instagram(machito_sendai)

(# machitosendai, #movemove, #仙台駅前らしさ)

《WEBアンケート》

https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=8-Iau47FvkajWgy_RL6vTu4OjqFuxQNPtcMwAQTIKJxUNEIWOEkxVDBHUVJaVzJBS09UMky2QTJUUy4u

